

いもう 葦毛通信



クチナシの果実

2022年3月28日
豊橋市文化財センター
豊橋市松葉町3丁目1
TEL: 0532-56-6060

No. 123

1、2021 年度作業報告ー2

葦毛湿原の大規模植生回復作業も終盤になりました。今年は湿生植物を中心とした埋土種子を活性化させ、発芽を促す実験を行っています。前号では土壌シードバンクの上に溜まった礫を除去する実験とイヌノハナヒゲの根を除去する実験について報告しましたが、今回はコシダの根を除去する実験について報告します。

1) I 地点コシダの根除去実験

I 地点では、昨年度に島状部の周囲にあるマント群落であるコシダ群落とネザサ群落を中心に除草と一部で根の除去実験を行いました（葦毛通信 No. 108・110・116 参照）。今年度は島状部の中心にあるコシダやネザサの根を広範囲に除去する実験を行いました。

葦毛湿原はどこも礫層が基盤層になっており、礫が細かく締まったところは地表面に水が流れ、礫が大きいところは乾燥気味になっています。I 地点は礫が細かく地表面に水が流れていますが、コシダはこの礫層の上に厚さ 5 cm 程の根の層を形成しており、この根が黒色土を抱き込んでいます。根の層の下には灰色に近い地層が薄く礫の表面に溜まっており、コシダが繁茂する前の地表面に堆積していた表土と考えられます。

除去作業は、木々の根を切らないようにして、でき



I 地点作業後前（2022 年 10 月 2 日）



I 地点作業後（2022 年 3 月 23 日）

る限りコシダの根だけを除去するようにして、黒色土は残すようにしています。右写真は木の間でコシダの根を除去して搬出しているところです。下左写真は除去前の状況で木々の間でコシダが葉を伸ばしているところです。下右写真はコシダの根の層を除去しているところで、奥の作業中の人の足元と手前には5 cm程の段差があります。



I 地点作業中 (2022 年 2 月 1 日)



I 地点作業前 (202 年 12 月 21 日)



I 地点作業中 (2022 年 2 月 15 日)

2) N地点コシダの根除去実験

N地点では木道脇のコシダ群落を除去した実験区を設定しました。下写真左は作業前、右は作業後の写真です。コシダやネザサを刈り、根の層を剥いで実験区の周りに縦にして積み上げました。雨に打たれて土中の埋土種子が実験区の中に流れ込むと予想しています。

周辺はハルリンドウが多く自生しているところですが、実験区の中は礫が目立つ裸地になっており、ここではハルリンドウは発芽しないと予想しています。



N地点作業前 (2021 年 10 月 4 日)



N地点作業後 (2022 年 3 月 23 日)

3) L地点ネザサ除草

L地点は明るい森にするために木を間伐したところですが、作業後はネザサが優勢になり分布を広げています。毎年、ミカワバイケイソウの発芽を促すためにネザサを刈り取って日照を確保しています。



L地点作業前（2022年2月1日）



L地点作業前（2022年2月15日）



L地点作業後（2022年2月1日）



L地点作業後（2022年2月15日）

4) Q・R地点

R地点の⑥の池は冬の間雨が少なくなって水がほとんどなくなってしまいました。観察すると、これまでの大雨の度に水路が埋まり、水が流れにくくなって⑥に流入する水が



R地点⑥干上がった状態（2022年3月7日）



掘り直した流入路

少なくなったことが原因でした。そこで、⑥に流入する水路を掘り直したところ、一晩で満水になりました（下左写真）。また、イノシシに破壊された排水路も造り直しました。排水路はそこに平らな石を敷いて、勾配を緩やかにして下の水路から水生動物が入りやすくしてあります。



R地点⑥満水状態（2022年3月23日）



修理した排水路

2、春の訪れ（開花状況）

今年は気温が低く、葦毛湿原の植物も開花が遅れています。例年より2週間ほど遅くなっているようです。現在、ショウジョウバカマが満開になり、タチツボスミレも咲き始め、ハルリンドウはやっと数輪が開花し始めました。ミカワバイケイソウは昨年の開花数が極端に少なかったなので、今年はGW頃には多くの花が咲くと予想しています。



タチツボスミレ（2022年3月23日）



ショウジョウバカマ（2022年3月23日）